

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

研修事業の名称 三浦市社会福祉協議会介護職員初任者研修通学コース

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービスと介護保険外サービスについて、具体的なイメージが持てるようにまとめていく。 ・介護保険で提供される介護サービスを教科書の事例を交えながら、講師の現場実践も絡めていく。 ・以上をもとに介護の入り口として理解をしていく。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な現場において、介護職がどのような環境・形態・仕事を行っているのかを具体的に学んでいく。 ・講師による講義の他、テキストに準拠したDVDなどを活用して、働く側と利用する側の両方から介護サービスの理解を深めていく。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生の身近にある介護に関する施設・事業所を挙げてもらいながら、地域における介護について考えてみる。
合計	6	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	4時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間や社会のあるべき姿を見つめながら、人権や尊厳を守ることの重要性を、ICF・QOL・ノーマライゼーション・虐待防止・身体拘束、その他個人の権利を守る制度を通じて、学習する。 ・具体的な事例や講師の体験を交えて身近に感じられるようにする。
② 自立に向けた介護	5時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護とは生活のお世話ではなく、利用者の自立に向けた、要支援・要介護状態の予防、もしくは改善や維持を目指した支援でなくてはならないことが位置付けられたことを、①を受けて現在の介護の考え方の両輪として学習する。 ・事例を通じて、残存機能の活用や重度化防止、さらには個性ということも加えて理解を深める。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の介護予防として、各自治体などで取り組んでいるDVD等を紹介しながら、実際に体験もしていく。
合計	9	

3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアの重要性がうたわれていることが現在の福祉の流れであることを理解する中で、どういった専門性が必要であり、どのように多職種との連携をとっていったらよいかを介護職の役割を通じて学んでいく。 ・介護職の立ち位置から、受講者の視野が広がっていくように、事例やDVD等を活用して具体像を描けるようにしていく。
② 介護職の職業倫理	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な支援を必要とする人たちと生活支援を通じて日常的に接する機会が多い介護職には、特に厳しい倫理観が求められることを事例や講師の体験を通じて具体的にとらえていけるようにする。 ・専門家としての自覚をもつために、社会的責任を十分に理解し、倫理に根ざした姿勢、支援の方法を学んでいく。 ・プライバシーの保護・尊重については事例を通じて学んでいく。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通じてグループワークを行い、プライバシーの重要性を確認し、身につける。
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年訴訟にまで発展するケースがおおくなっている介護事故への対応から予防の考え方を学んでいく。そのためにも、組織での対策や教育などポイントを解説し、今後遭遇した際に冷静に対処できるようにしていく。 ・感染対策においては例年流行るものや実際接する可能性が高いものを解説しながら、予防法についてしっかり学んでいく。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手の洗い方など、普段と比較しながらしっかり身に付けていく。
④ 介護職員の安全衛生	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響を与えることを学んでいく。 ・介護職員の離職の原因となりうるこころの健康や腰痛について具体的に予防法も含めて学んでいく。 ・今後、自分だけでなく他スタッフも不安がなく働けるように、その取組みについてしっかり理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰痛体操を実践しながら、普段の仕事や生活に活かしていく。
合計	6	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護保険制度	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成12年4月から施行された介護保険制度について、制度が創設された社会的背景を解説し、介護保険制度の意義を理解する。更に、財政的な背景から行政の役割、実際のサービス内容や利用の流れを学習する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに制度の流れをまとめて、地域住民を対象にして伝わる様に発表する。
② 医療との連携とリハビリテーション	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 医療職が行う医行為と、介護職が行うことができる医行為の境界線をしっかり認識し、責任ある介護を提供できるように学ぶ。 リハビリテーションについても、医療職が行うリハビリテーションの概念や仕組みを理解し、多職種連携とのかかわりについても確認する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護職員が行える行為について、受講生同士の演習を通じて確認する。例、血圧測定など。
③ 障害者総合支援法およびその他制度	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者への支援にあたり、サービス提供の基となる障害者総合支援法を中心に、社会的な支援システムとサービスの内容、利用の流れ等について学習する。 高齢者や障害者をはじめ、社会的な支援が必要な人の生活や権利を守るための個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業などを学習し、より細かな生活支援が出来るようになる。
	時間	
合計	9	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割から、コミュニケーションの基本技術、利用者や家族、さまざまな障害のある人とのコミュニケーションについて学ぶ。 ・講義・演習を通じて、コミュニケーション能力を高め、人間関係づくりに役立てていく。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己覚知から入り、自分のコミュニケーションの特徴を振り返る。傾聴や質問のトレーニングを通じて、コミュニケーション方法を磨く。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義から効率的な記録の記載法をはじめ、報告、連絡、相談の意味や意義、カンファレンスや事例検討会、担当者会議の留意点について学んでいく。 ・特に、働いている人にとっては、記録の具体的な書き方について確認し、日ごろの業務に活かしていく。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を参考にして、記録を実際書いてみることで、パターンを身に付ける。
合計	6	
6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な視点から、老化により高齢者のこころとからだはどのように変化し、どのような状態になるのかを学習する。 ・老化の理解を通して、高齢者の介護における基本的な留意点を理解する。 ・各症状のポイントをわかりやすく解説し、実践につながるようにしていく。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な老化について、グループに分かれて話し合いまとめて、実際に生じる内容と比較する。イメージだけでなく全身に現れてくることを理解する。
② 高齢者と健康	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多い疾患や国民病とも言われる生活習慣病や老化に伴う疾患等について学習する。 ・疾患や障害の基本的な理解を通して、日常における高齢者の生活支援の留意点を理解する。 ・代表的な疾患については、事例を交えてより理解しやすく解説する。
合計	6	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の高齢者の行動や心理症状の理解を通して、共感的な姿勢で関わるケアについて学習する。 ・学習を通して、認知症の高齢者へのケアの理念を深く理解し、その後の学習につなげる。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生それぞれに認知症のイメージやかかわった体験を聞きながら、認知症の人の世界について考える。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の診断等で用いられる評価法をはじめ、障害の状態や原因となる疾患などの医学的な理解とともに、予防のための対策や健康管理について学ぶ。 ・特に、主な疾患となるアルツハイマー病をはじめとして、その他疾患との違いを理解し、それぞれにあったケアが必要であることを理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の診断の際に使用するスケールを実際に体験することにより、こういった認知の障害を鑑別しているのかを理解する。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の症状は大きく中核症状と周辺症状に分けられ、それぞれの特徴を確認する。 ・特に、周辺症状の具体的な現れ方や症状、認知症の高齢者とのコミュニケーションや基本的なケアについて学び、介護職員の基本的な姿勢を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例をもとに、周辺症状の現れ方について体験する。
④ 家族への支援	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護者の現状として、目を離すことができないことから、自身の生活のリズムを崩したり、不潔行為や暴力的行為などによって、精神的に追いつめられることがあることを学ぶ。 ・事例を通して、介護者の思いを理解し、介護職員としてどのように支えられるかについて理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もし、自分の家族が認知症になってしまったら・・・」という題で、家族としてどういった支援をしていきたいかを考えてみる。
合計	6	

8 障害の理解(3時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICFについて学習し、障害者への介護にあたり、障害に関する基礎的な理解につなげる。 ・ノーマライゼーションの概念をもう一度確認しながら、基本理念として理解を深める。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFの考え方について、事例をもとに図を書いてみる。
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害や聴覚障害をはじめ、内部障害、精神障害等について、各々の疾患や症状、介護における留意点について学ぶ。 ・学習を通じて、障害者を正しく理解し、介護の基本的姿勢を理解する。 ・テキストだけではなく講師の事例を交えながら、それぞれの障害の特徴を具体的にとらえていく。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の障害受容だけでなく家族の障害受容も大きな課題となっており、家族の心理や障害受容、支援にあたっての留意点についても学習する。 ・講師の事例を交えながら、家族にも寄り添うことが重要であることを理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローターの説を参考にしながら、実際の過程について事例を通じて体験する。
合計	3	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	① 介護の基本的な考え方	1時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの確認として、もう一度介護の理念や法的根拠、介護を行う上での視点について学び、これからの演習に備えていく。 ・利用者を主体とする介護の意味を理解する。
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	6時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記憶や感情のメカニズムをはじめ、幸福感や生きがいを感じる自己の概念、さらには老化や障害の受容、適応について学習する。 ・既に学んでいる老化や障害の考え方と結び付けて、尊厳を守る介護の理解につなげていく。
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称をはじめ、骨や関節の構造、中枢神経や自律神経と内部器官などの基礎的な知識を学習する。 ・こころとからだのしくみを理解することで、利用者の自立を支援する介護の理解につなげていく。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインの測り方について、受講生同士で実践を行う。
生活支援技術の講義・演習	④ 生活と介護	3時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援としての家事サービスのあり方を明確にするとともに、実際の調理、洗濯、掃除等の家事サービスにおける留意点について学習する。 ・DVDや講師の事例を交えながら、実践に役立つように理解を深める。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、以下のパターンでベッドメイキングを実施する。 ① ベッドに人がいない場合 ② ベッドに人がいる場合
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	3.5時間	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な生活を送るために必要な居住環境の整備から、利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具（機器）について学習する。 ・家庭内に多い事故からバリアフリーの重要性を学び、介護保険制度における住宅改修・福祉用具貸与といった制度の活用につなげる。 ・福祉用具（機器）は、利用者だけでなく、家族や介護者の健康を守ることも理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具（機器）の実物の解説から実際の使用方法について触れながら体験することで理解を深める。

<p>⑥ 整容に関連したところ とからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身なりを整えることの意義や目的、整容のために必要な支援の方法や技術について学習する。 ・DVD や講師の事例をもとに、イメージを作ってから演習に入る。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、以下のパターンで衣服の着脱を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 前開きの上着の着脱 ② かぶりの上着の着脱 ③ ズボンの着脱 ④ ベッド上での浴衣の交換 ⑤ 顔の清拭
<p>⑦ 移動に関連したところ とからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗の意義をはじめ、安全で安楽な介助を行うためのボディメカニクス、人体の構造や基本肢位の理解、具体的な介助技術等について学習する。 ・DVD や講師の事例をもとに、基本のポイントをしっかり押さえてから演習に入る。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、以下のパターンで移動・移乗の介助を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 体位の種類の確認 ② 体位変換（水平移動と上下移動） ③ 寝返りから起き上がり（逆パターンも実施） ④ 端坐位から立位（逆パターンも実施） ⑤ 車いすへの移乗と走行介助 ⑥ 杖歩行の介助（T字杖・白杖） ⑦ 階段昇降（麻痺あり）
<p>⑧ 食事に関連したところ とからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義と目的から、栄養に関する知識、代表的な疾病における栄養や調理、さらに食事介助の方法について学習する。 ・口腔ケアの重要性について食事の流れの中で確認をする。 ・DVD や講師の事例をもとに、摂食・嚥下のメカニズムを理解し、食事介助の命にかかわる重要性を押さえてから演習に入る。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、以下のパターンで食事の介助を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 座位での食事介助（麻痺あり、視覚障害あり） ② 臥位での食事介助 ③ 水分補給の介助（とりみ使用） ④ ブラッシングと義歯の着脱

	<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6.5時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴の効果や皮膚の構造の知識をはじめ、さまざまな生活動作を伴う入浴における介助につなげながら、清拭や部分浴に関する支援の方法を学ぶ。 ・DVDや講師の事例をもとに、利用者ができることは利用者が行うといった残存機能を活かした支援をpushしてから演習に入る。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、以下のパターンで入浴・清拭の介助を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 片麻痺のある利用者の場合（一部介助） ② 全介助を要する利用者の介助（機械浴） ③ 部分浴（手浴、足浴、陰部洗浄） ④ 清拭 ⑤ 整容（髭剃り、爪切り）
	<p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6.5時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識をはじめ、具体的な支援の方法について学習する。 ・DVDや講師の事例をもとに、利用者の尊厳を重視した支援をpushしてから演習に入る。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、以下のパターンで排泄の介助を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① トイレ・ポータブルトイレの介助 ② 全介助を要する利用者のおむつ交換 ③ 尿器や便器での排泄
	<p>⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6.5時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠のメカニズムから、心地よい睡眠を確保するための環境や福祉用具の活用法、快い睡眠のための支援の方法を学習する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、以下のパターンで睡眠の介助を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① ベッドメイキング全般 ② 褥瘡予防
	<p>⑫ 死にゆく人のところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>3時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアの基礎知識から、死にいたる過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援の方法を学習する。 ・DVDや講師の事例をもとに、利用者の尊厳を守り、その人らしい死を迎えるための介護のあり方を考える。
<p>生活支援技術演習</p>	<p>⑬ 介護過程の基礎的理解</p>	<p>6時間</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を行ううえで最も重要な介護過程の意義や目的などを、具体的にわかりやすく学ぶことで、介護過程の基本的な視点や姿勢を身に付ける <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例1～4をもとに、グループごとに介護計画を立案する。ところどころ区切りを入れてポイントを理解し、最後に発表する。

	⑭ 総合生活支援技術演習	6時間	<講義・演習内容> ・生活場面、障害状況の異なる4人の事例を通し、具体的な介護内容および介護の留意点などを展開する。 ・今まで学習してきた内容をふまえ、各事例の紹介をした後に、各事例を展開していく。 ・グループに分かれて、仕上げとして技術の確認をしていく。
実習		0時間	
	合計	75	
10 振り返り (時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	振り返り	3時間	<講義内容> ・研修全体を振り返り、今回の研修で学んだことについて再確認を行う。 ・今までの項目の中でわからないことの質疑も行き、全体のまとめをしていく。
	就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1時間	<講義内容> ・働いている、働いていないにかかわらず継続的に学ぶことおよび今後目指すべき資格を伝えていく。 ・介護の資格とキャリアアップについて、受講生の現在および今後の位置づけについて教科書をもとに解説して、これからの展望についてもイメージがわくようにしていく。 <演習内容> ・今回学んだことを職場でどのように活かしていくかを受講生に聞きながら、それぞれアドバイスをしていく。
	合計	4	
全カリキュラム合計時間		130時間	